

ITU-R SG5 副議長 (RA-15 選出(新任)) 新 博行氏 (NTTドコモ) に聞く

【読者のための豆知識】

SG5 (第5研究委員会)の活動内容：
地上業務に関わる無線通信技術、運用等の
問題の研究及び勧告等の作成

====

専門領域: 第4世代以降の携帯電話システムの研究開発、周波数の標準化
略歴: 1999年 NTT 移動通信網株式会社(現、株式会社NTTドコモ) 入社
2006年より ITU-R、APTにおける標準化活動に従事
2015年 ITU-R SG5 副議長就任(現在に至る)

====



— RA-15 から1年余りが経ちましたが、重責を担われていることについて現在の率直なお気持ちは？

(新) SG5の副議長には18名のメンバーが任命されています。わが国からご推薦を頂き、日本国の代表としてこの役を担っていることを踏まえ、18名の中でも日本の貢献が少しでも目に見えるよう、SG5の活動に貢献することを意識しています。

— ご専門領域とご経歴、ITU(SG)との係わりなど、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

(新) 2006年から、ITU-R や APT における携帯電話システム及び周波数の標準化に従事しています。2015年にはITUの世界無線通信会議にて、携帯電話周波数の追加特定に関する議題1.1の検討を行うサブワーキンググループ議長を仰せつかり、貴重な経験をさせていただきました。

— これから RA-19/WRC-19 に向けて副議長としてリーダーシップを発揮されていくことになりましたが、今研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事でしょうか？

(新) SG5は幅広い分野を取り扱っていますが、2020年にかけて実施する第5世代携帯電話システムの無線方式(IMT-2020)の標準化や、WRC-19における24.25~86GHzにおける携帯電話周波数の特定(議題1.13)に向けた検討、が大きなテーマであると考えております。

— 副議長としての目標達成のためにどのような点に力点を置いて活動される予定ですか？

(新) 議長役として会議等を仕切る役割の場合には、公平な議論が進行できるように注意しています。また会議の場だけでなく、日頃から関係者とのコミュニケーションをとり、信頼関係を構築することを意識しています。

— 副議長としての難しさや壁(障壁)、そうしたことへの対処方法はどうお考えですか？

(新) 議論が対立・紛糾した場合に、いかに調整力を発揮して課題を解決していくか、という点です。ベテラン議長がどのように課題を解決しているかを観察したり、自分であればどう解決するかと自問自答し、対処方法の引き出しを増やしていく必要があると考えています。

— わが国の政府関係やICT産業界からの理解や協力が大変重要で必要なものだと思いますが、これについての期待をお聞かせください。

(新) SG5副議長にご推薦を頂いた総務省様、日頃の活動をバックアップ頂いている会社から、多大な理解・協力を頂いています。逆に自分がその期待に応えられるよう、精力的に活動をしていきたいと考えております。

— 他国の政府や事業者などとの協調・協力が不可欠だと思いますが、副議長としてこうした加盟国(事業者)に対して期待することはどのようなことがありますか。

(新) 先輩方が築いてこられた日本のプレゼンスをさらに向上させていく上で、自身の振る舞いが他国の関係者との協調・協力を直結すると感じています。日本は頼りになるとされるように、彼らの期待を吸い上げていく必要があると考えています。

— 個人的な信条とか、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

(新) 子供の興味もあり、ここ数年水族館めぐりをするようになりました(葛西臨海水族園、鴨川シーワールド、アクアワールド・大洗、横浜・八景島シーパラダイス、新江ノ島水族館、海遊館、...)。

— このインタビューにお時間を割いていただき有難うございました。これからの一層のご活躍をお祈りしております。読者の方へのメッセージがあればお聞かせください。

(新) これからも皆様のご協力を賜りながら、活動を続けていきたいと考えております。何かご不明の点などあれば、お気軽にお問合せ頂ければと存じます。

文責:(一財)日本 ITU 協会(M)